



韓国「社医連」・韓国医福連の 医学生たちと考える SDH・HPH

日時：7月16日（祝）

13:00 から 17:00 終了後交流会

場所：全日本民医連

今年5月、「韓国社会的医療機関連合会」（社医連）が結成されました（裏面記事参照）。7月中旬には、さっそく「社医連」と韓国の医療生協である「韓国医療福祉社会的協同組合連合会」に関する韓国の医学生と医系学生が日本の民医連の医療実践に学ぼうと来日します。

その中の企画の一つとして、左記の日程で学習会を開催します。日本の医学生や研修医とも交流したいとの希望も出されています。急な企画のご案内になりますが、参加者急募中です。

当日の主な内容

- ① 根岸京田全日本民医連副会長・医療介護福祉部長によるSDHとHPHと民医連
- ② 和田浄史全日本民医連研修委員（川崎協同病院外科）の東大医学部SDH講義 mini for 韓国医学生。和田先生が毎年東大でおこなっている、実践に根づいたSDH講義を韓国の医学生たちにぶつけます！
- ③ 韓国の医学生たちの実践報告（3人程度を予定）
- ④ 日本の医学生の取り組み報告（急遽募集集中！） 参加医学生・研修医の交通費等は民医連で負担します

主催：全日本民医連国際部 お申込み・お問い合わせは全日本民医連／小田・下石まで
メール：ishi@min-iren.gr.jp 電話：03-5842-6451

ともにアジアの健康権を守る

韓国で「社医連」結成

民医連と長年交流してきた韓国の仲間が五月二十六日、「韓国の医療機関連合会」(以下、社医連)を結成しました(写真左)。創立総会に先立ち、全日本民医連の岸本啓介事務局長が、社医連の結成準備にあたってきた医師たちに聞き取りました。(丸山いぶき記者)



林理事

岸本 超高齢化、貧困と格差の拡大は日本も同じ、アジア共通の課題です。医療人一人ひとりで解決が難しい課題に集団で立ち向か

ました。岸本 超高齢化、貧困と格差の拡大は日本も同じ、アジア共通の課題です。医療人一人ひとりで解決が難しい課題に集団で立ち向か

ました。岸本 超高齢化、貧困と格差の拡大は日本も同じ、アジア共通の課題です。医療人一人ひとりで解決が難しい課題に集団で立ち向か

ました。岸本 超高齢化、貧困と格差の拡大は日本も同じ、アジア共通の課題です。医療人一人ひとりで解決が難しい課題に集団で立ち向か



姜理事長

おつと結成したのですね。

■社医連の組織は？

岸本 社医連の組織構成を教えてください。

金奉九(社医連準備委員長、ソウル緑色病院院長) 医療福祉社会的協同組合連合会に加盟する二五の医療機関と、緑色病院も所属する公益医療をめざす会を中心に、二年にわたる準備しました。理事

会、委員会、事務局で構成し、総会は、各加盟機関から選出された代議員による決定機関。理事会は、理事長と九人の理事で構成する執行機関。委員会は、健康な村づくり委員会、教育・学術委員会、組織委員会、経営委員会、性平等委員会、広報委員会、六つがあります。

岸本 医療機関が集まるとさまざまな意見が出て、理事長も理事会も苦勞されると思いますが、民主主義は組織のエネルギーです。全日本民医連も結成から六五年、議論を尽くすことで前進してきました。民医連もまちづくりや経営には力を入れています。設立趣旨や綱領も、とてもすばらしい。

金 民医連を見て作ったので(笑)。



金準備委員長



社医連が誕生した同じ5月26日、韓国と北朝鮮の軍事境界線にある板門店では、2度目の南北首脳会談が行われていました。歴史的な米朝首脳会談の開催が危ぶまれるさなかのことでした。

創立総会後、夕食懇談会で訪れた大衆食堂では、電撃的なニュースに拍手が湧き起こりました(写真)。

五月二十六日、韓国ソウル市内で韓国社会的医療機関連合会の創立総会が開かれました。韓国全土から六二人の医療人が集まり、社医連の設立趣旨と綱領、規約を承認し、役員を選出しました。社医連には病院一、医院二、韓方医院八、歯科医院四、薬局四、老人介護施設一、家庭看護センター一、療養院一の計三三の機関が加入。医療・福祉の産業化に反対し、地域住民の健康権を守り、人権・平和という社会的な価値の実現をめざす連合体として、新たに出版

しました。全日本民医連からは、岸本啓介事務局長と西澤淳事務局次長が来賓として参加。岸本事務局長は、「全日本民医連の歴史と課題」と題した講演で、戦前の無産者診療所から続く歴史を民医連綱領の変遷とともに紹介。「これまで以上に大事な友人として、ともにアジアの健康権を守っていきましょ」と呼びかけ、記念の楯と山本宣治の遺した言葉を記す拓本を贈りました。社医連からも感謝杯を受け取りました。

医療・福祉の産業化に反対し人権・平和の実現へ

韓国社会的医療機関連合会が創立総会

■民医連のみなさんへ
岸本 民医連職員へのメッセージをください。
姜 社医連も民医連も、所属して

いるだけで社会的な責任があるの
で、職員は負担も感じるかもしれ
ませんが、そんな組織の一員であ
ること自体に誇りを持ち、互いに
励ましながらんばりましょう。
金 社医連は韓国の民医連です。
民医連というモデルがあること自
体が私たちの力になります。この
場を借りて民医連に感謝したい。
林 人権・平和・健康権という価
値の実現をめざす私達は、とも
にたたかう仲間。その連帯を感じ
ることが力になります。ともにが
んばりましょう。



⑥「笑顔も希望も、自分でつくる」

退院に備えて、入院中に介護保険を申請。認定調査まで済ませ、狭い我が家に介護用ベッドを搬入し、いざ退院。

2016年11月、職場の理解を得て仕事に復帰。ほどなく要介護2という通知が届く。ケアマネさんと顔合わせして、浴室に設置するバスリフト、長距離歩行が困難になってきたため車椅子をレンタル。まだ先だとたかをくくっていたが、あつという間に介護保険のお世話になる。

案の定、入院中の体力低下とALSの進行が重なり、これまで通りの日常生活を送るだけで疲れ果ててしまう始末だった。着替え、身じたく、車の運転、3階の職場までの階段、仕事、買い物、料理、入浴、排泄。難なくできていたことが、ひとつまたひとつと、できなくなっていく。切なかった。つねに誰かの介助なしには生活が成り立たない。ついこの間まで、自分の思う時に思う場所へ、フラフラと出掛けていたのに。急激な身体の変化に驚愕しながら、人体の神秘さを感じずにはいられなかった。

仕事はそれでも続けたかった。まだやり残したことがある。何より仕事のない生活が想像できなかった。ALSに24時間支配される生活が怖かったのかもしれない。ほんのひと時も、ALSのことを忘れ

たかった。

同時に、私の生活からあらゆる自由がなくなっていく寂しさや不安に押しつぶされそうになった。この頃には早くも呼吸苦が出現し、睡眠時に人工呼吸器(NPPV)を装着するようになった。頭の片隅では時間は有限とわかってはいたが、急に人生に限りがあると突きつけられた。1日1日が愛おしく、生きるこの意味を噛みしめる日々。

確かにALSは残酷な病気だ。でも、ALSに支配されて冴えない顔で過ごすのはまっぴらごめん。ALSとともに生きていくために必要なのは笑顔と希望。私が希望を持ちながら笑顔でいるために、やりたいことリストを作成した。

もうすぐ、きっと、ALSは治る病気になると信じている。6月21日は世界ALSデー。

文 ●そねともこ。1974年生まれ、岡山県在住。夫・長久啓太、猫2匹と暮らす。2016年、ALS(筋萎縮性側索硬化症)と診断をうける。



めいこ